

地域から地球へ、環境保全の推進

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。

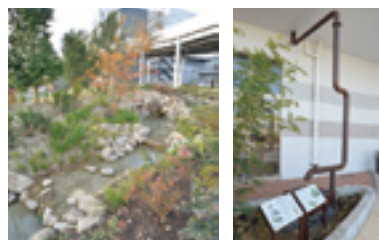


先進的なエコモールをめざして

イオンモールは新規出店やリニューアルを行う際、より環境への負荷が少ない最新の設備を導入するほか、継続的にエネルギー関連設備の検証と改善を行い、得られた成果を全国のモールで水平展開しています。

イオンモール東員、 「いきもの共生事業所®認証」取得

2013年11月、三重県にオープンしたイオンモール東員では、「イオン ふるさとの森づくり」に加え、雨水の地中循環を行う「雨の庭」、地域の生きものが住みやすい環境空間である「ふれあいパーク」などを敷地内に設置しています。これら生物多様性に対する取り組みが評価され、一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会 (ABINC) により、一般社団法人 企業と生物多様性イニシアチブ (JBIB) の「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、ショッピングモールとして初めて「いきもの共生事業所®認証(都市・SC版)」を取得しました。



雨水を循環して利用

イオンモール幕張新都心、 環境性能評価の認証取得

イオンモール幕張新都心は日本国内の大規模商業施設としては初めて、国際的な建築物の環境性能評価である「LEED認証」を取得いたしました。主要評価項目である、土地利用、節水、エネルギー効率、材料と資源、室内環境のすべてにおいて高い評価を得ることができました。さらに、日本国内で最も認知されている環境性能評価である「CASBEE」の第三者認証も併せて取得することができました。

国内でトップレベルの環境性能を備えた大規模商業施設として、地域の皆さま、ご来店いただく皆さまにさらなる安全・安心の提供をめざしてまいります。



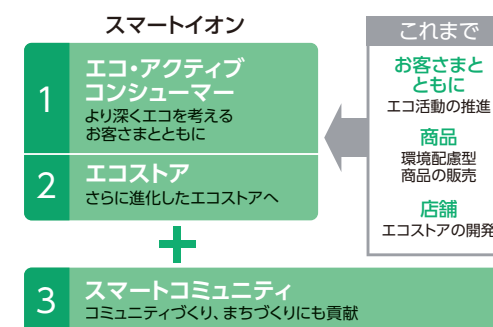
LEED認証



CASBEE

スマートイオンの展開

「スマートイオン」とは、より深くエコを考えるお客さま、さらに進化したエコストアが一体となり、持続可能なコミュニティづくりやまちづくりにも貢献する、新しい商業施設のあり方です。2013年12月にオープンした「イオンモール幕張新都心」は、イオンがつくるスマートコミュニティの実現、自然エネルギーの最大活用、分散化電源による事業継続計画 (BCP) 拠点化などに取り組んでいます。



EV(電気自動車)充電器の設置拡大

地球環境の保全、持続可能な社会の実現をめざし、CO₂を排出しない電気自動車やプラグインハイブリッド車の普及に対応するため、各モールにEV(電気自動車)充電器設置を進めております。



EV充電器をつないでいる様子

「イオン ふるさとの森づくり」への 継続的な取り組み

1991年にマレーシアのマラッカでスタートした「イオンふるさとの森づくり」。当社でも新しいショッピングモールがオープンする際には、地域の自然環境に最も適した、その土地に自生する樹木をお客さまとともに植えています。「イオンモール幕張新都心」の植樹にて累計植樹本数が1,000万本に到達、2013年11月、記念碑除幕式が行われました。今後も植樹活動を積極的に展開していきます。

自然の力を利用したエコ

太陽光発電

国内外の一部モールでは太陽光発電システムの設置を完了し、使用電力の一部をまかなっています。イオンモール福津、イオンモール幕張新都心では、災害などによる停電時にも太陽光パネルで発電した電力を活用できるシステムを導入しています。

壁面緑化／植栽

モール壁面の緑化は景観を向上するだけでなく、夏季の館内における温度上昇を抑制し、冷房で使用するエネルギーの削減につながります。イオンモール幕張新都心では、建物の壁面を緑化するとともに、遊歩道「グリーンウォーク」や屋上公園「スカイパーク」を設け、緑豊かな憩いの空間を演出しています。



壁面緑化(イオンモール幕張新都心)

公共交通機関の利用促進

国内のイオンモールは、電車や路線バスなど公共交通機関でご来店いただける環境を整えています。鉄道会社や交通局と連携して電車でご来店されたお客さまに特典を提供するなど公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進めています。地域の皆さまが通勤などの際にモールの駐車場に自家用車を駐車し、そこから公共交通機関で最寄駅や中心街へ移動する「パーク&ライド」も実施するなど、交通渋滞の緩和や大気汚染の低減に貢献しています。



イオンモール幕張新都心前のバス停

地域から地球へ、環境保全の推進

各モールにおける日々の活動

水質保全

排水基準を順守するためにすべての飲食店に定期的な厨房のグリストラップ清掃を義務づけ、油やごみの流出防止に努めています。そのうえで各モールでは、万一、店内の厨房から油が流出する事故が発生した場合に外部への拡散を防止するための訓練を定期的の実施しています。また、一部のモールでは排水を浄化するためにバクテリア分解を利用しています。培養液によりバクテリアを増殖させ、そのバクテリアが体内にリンや窒素を取り込むことによって、油分などを分解して水質を浄化します。



節水シール



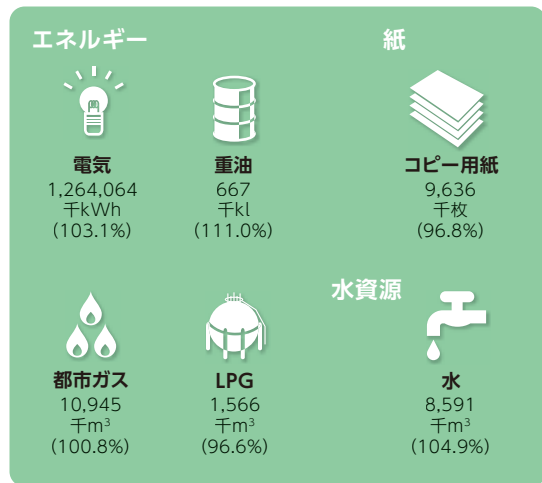
ごみ庫内に設けられた防油堤 グリストラップ清掃



万一の事故に備えてチューブ型油吸収材を常備

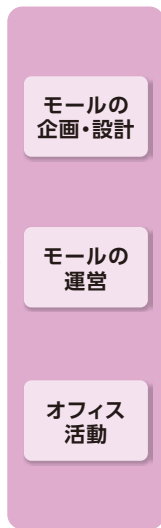
2013年度インプット／アウトプット

INPUT

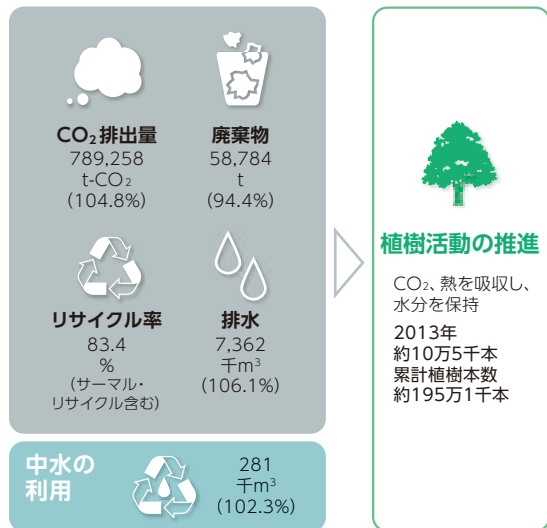


※対象は、共有部分、イオン、テナントも含むモール全体
※()内は対前年比

事業活動



OUTPUT



節電対応

各モールでは四半期ごとの電力使用量の目標値を定めており、省エネルギーの観点から、お客さまの安全や快適さに影響を及ぼさない範囲で日常的な節電に努めています。具体的には、社内の照度基準を確保した上での照明の間引き、お客さまの少ない時間帯における駐車場の一部エリア閉鎖や一部エレベーターの運転停止、館内の適切な空調管理などが挙げられます。

省エネへの取り組み

空調冷水カスケードシステム

当社が開発した「空調冷水カスケードシステム」は、複数の空調機をカスケード(連なった)配置とし、夏季の冷水搬送動力の低減ときめ細かな空調負荷対応を実現しました。冬季は館内の人体発熱や照明発熱を冷水で熱吸収させ、外気を温めて送風に利用。一般的なシステムと比較して約50%のエネルギー削減を可能にし、CO₂排出量削減に貢献します。

LED照明

各モールの館内照明については、従来の蛍光灯や白熱電球から、より省電力かつ長寿命なLEDへの切り替えを進めており、専門店にも導入を呼びかけています。2013年にオープンしたイオンモール春日部、イオンモール幕張新都心では、いずれも共用部のLED採用率100%を達成しています。また屋外の電飾サインにも消費電力の少ないLED光源ユニットを採用しています。

環境コミュニケーション

環境への取り組みは従業員だけで進められるものではなく、専門店やお客さまのご理解・ご協力が必要です。専門店のスタッフには小冊子の配布やバックヤードの掲示物などご協力をお願いしています。また館内ではエコステーションやエコベンチを通してお客さまへの環境コミュニケーションを行うとともに、エコバッグの持参やリサイクルへのご協力を呼びかけています。



モール内のエコインフォメーション



環境コミュニケーション小冊子

資源を有効に活用するために

「見える化」による廃棄物削減

廃棄物の削減では「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにし、課題として意識づけることが重要です。各モールでは、廃棄物を基本17品目(右表の番号付きのもの)に分別したうえで品目ごとに計量するシステムの導入を進めています。2013年度のリサイクル率は83.4%でした。専門店は各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめます。分別されたごみのうち、可能なものについては極力リサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率を集計しています。



廃棄物は品目別に分別して計量。どの専門店からどれだけの廃棄物を出しているかをデータで把握しています

資源回収・リサイクルの促進

イオンモールでは、ご家庭の古新聞や古雑誌をお持ちいただいたお客さまに重量に応じたリサイクルポイントを発行し、一定のポイントがたまるとイオン商品券と交換するシステムを導入、古紙のリサイクルを促進しています。回収はモールに設置した専用のボックスで行うため、お買い物のついでにいつでもお持ちいただける点でもお客さまからご好評をいただいています。

また、イオンモール幕張新都心をはじめとしたイオンモール各店では、ご家庭のペットボトルを回収し、WAONポイントを付与する取り組みを行っています。



ecomooの様子

2013年度の廃棄物排出総量とリサイクル率

	廃棄物排出総量	リサイクル率
1 生ごみ	12,009t	83.9%
2 段ボール	17,320t	100.0%
3 雑芥	16,308t	56.3%
4 廃プラスチック	2,518t	99.9%
5 ビン	369t	98.0%
6 缶	612t	100.0%
7 発泡スチロール	109t	100.0%
8 廃油	1,419t	100.0%
9 紙類	2,594t	100.0%
10 粗大ごみ	153t	57.9%
11 その他不燃ごみ	1,300t	73.0%
12 廃蛍光灯	67t	90.0%
13 廃電池	9t	79.8%
14 割り箸	100t	99.9%
15 廃アルカリ・剥離剤	32t	64.3%
16 汚泥	3,419t	92.5%
17 廃エンジンオイル	—	—
店頭回収:アルミ缶	80t	100.0%
店舗回収:食品トレイ	26t	100.0%
店舗回収:牛乳パック	68t	100.0%
店舗回収:ペットボトル	271t	100.0%

リサイクル率(サマル・リサイクル含む)

83.4%

※対象は、共有部分、イオン、テナントも含むモール全体

環境活動のグローバル展開

2014年4月、中国・江蘇省に「イオンモール蘇州呉中」をオープンしました。このモールは、蘇州市の新たな景観都市のモデルとなっている総敷地面積110万m²の公園「イオングリーンアイランド(永旺緑島)」の中心に位置しています。“人と環境に配慮したモール”の実現をめざし、さまざまな環境への取り組みを行っています。



イオンモール蘇州呉中

太陽光の活用

屋上には約800m²の太陽熱温水システムを設置し、12t／日の温水をフードコートに提供。また、屋根の先端部分には約500m²、約50kWの発電が可能(晴天時)なソーラーパネルを設置しています。



ソーラーパネルを設置した屋根

節電の取り組み

館内共用部の照明、外部サインすべてに、消費電力の削減とCO₂排出抑制に寄与するLED器具を採用しています。また、屋上ハイサイドライトのガラス面には、UVカット機能を持った省エネガラスを使用。モール部でも膜材を使用することで直射日光を遮り、館内の空調負荷を低減しています。



館内LED照明と省エネガラスを使用したハイサイドライト

緑化の取り組み

大規模な壁面緑化を実施。屋上駐車場にはツタやバラなどのツルを絡ませた日よけの庇(ひさし)を導入。また平面駐車場の歩道や駐車スペースの緑化部分にはECOコンクリートレンガを使用し、特に駐車スペースはそのレンガに芝生を植えた緑化駐車場にしています。



屋上緑化の様子

環境コミュニケーション

これら環境に対するモールの取り組みをお客さまにお伝えすることで環境意識啓発につなげる「エコインフォメーション」を設置しています。

中国においても環境意識は次第に高まりを見せています。イオンモール蘇州呉中では、中国の建設省が認証する建物の環境評価基準制度である「緑色二星」を取得しました。これは、日本の建築環境総合性評価システム(CASBEE)に該当する評価指標で、中国イオングループでは初の認証取得となります。



エコインフォメーション

Interview

モノを買うだけではない、人が集うコミュニティモールをめざす

イオンモールでは、お客さまに居心地のよい空間を提供するため、適切なモールの管理・運営に尽力しています。その取り組みの一つとして、モールに出店している専門店(同友店)との協力関係を強くし、円滑にするため、2014年から営業本部の直轄として「パートナーシップ・プロジェクト」を設置しました。これは、現在取引する約8,000社の同友店に対して情報共有や販売支援の強化を図ることで、イオンモールならではの新たな企画を提案しお客さまの満足を第一とした収益向上を目的とするものです。一元化した同友店の組織を基盤に、テナント(専門店)間のコラボプロモーションの実施、シーズンプロモーションの強化などを促進します。

同プロジェクトの主な実績では、2014年6月の「イオンプレミアムフェス」において、23社(出店区画数では約1,000区画)の専門店とコラボプロモーションを実施しました。

期間中、イオンモールの店舗でしか購入できない商品の提供や、限定サービスを企画し、専門店の新たな魅力を引き出すことで他店との差別化を図りました。専門店主導によるプロモーションは、他のモールにも普及し実施するケースが着実に増えています。モール運営の効率化・進化を図る上で、パートナーシップ・プロジェクトは今、最も力を発揮しているグループです。

営業部のスタッフには「現場力」が求められます。モールで各専門店とコミュニケーションをとり、お客さまの動向を見つめ、施設の安全安心に気を配る能力です。この現場力を強化すべく、2011年度より「次世代マネジメントリーダー研修」、2014年度から「営業スキルアップ研修」を実施しています。ショッピングモールやゾーニングの原理・原則の学び、同業他社の取り組みを研究するなどして、モールの管理・運営能力を高めています。

イオンモールでは、全体の約3分の1が地域行政誘致型モールであり、これまでも自治体の行政サービスコーナーを設けるなどの公的サービスを行っていましたが、近年はこうした要請がさらに高まっています。各自治体と協力して実施する県産品フェアなどの地域活性イベントも盛んに行っています。そのため、近年ではモール内にイベントスペースを広くとる、あるいはイオンホールを拡充するなどして地域の情報発信の場としてもご利用いただけるように配慮しています。また、環境保全では、施設内において、主に省力機器の導入、イオングループの省エネ手順の標準化を推進し、節電、節水など光熱費の低減・削減を図っています。専門店(同友店)についても、全店を対象に当社のCSRを開示した上で、売り場の照明のLED化、省力機器の導入などの協力を求めています。防災については、災害時に地域への協力支援を約束する防災協定を締結しています。これにより、災害時には物資の供給を担うモール、避難場所として開放するモールなど地域ごとに各モールが担う役割を明確に設定し、有事に向けて備えています。

今後も地域に根ざしたコミュニティモールとして、「単にモノを買うだけではない、人が集うモール」をめざし、引き続き努力を続けてまいります。

イオンモール株式会社 専務取締役 営業担当 岩本 博



営業スキルアップ研修の様子



確定申告の会場として



避難されている福島県浪江町の皆さまに「なみえのしゃべり場 in 宮城」を開催

